

(別記様式)

令和7年度 府立南山城支援学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(計画段階・実施段階)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>1 安心で安全な教育環境を整え、組織的、計画的で効果的な学校経営を推進する。</p> <p>2 いのち、健康及び人権の尊重を基本に、児童生徒一人一人の障害や教育的ニーズ等に応じた指導を充実する。</p> <p>3 卒業後の自立と社会参加を目指して、児童生徒がそれぞれのライフステージでのキャリアを積めるよう、主体的に学び合う、質の高い授業づくりや教育活動を推進する。</p> <p>4 医療、保健、福祉、労働及び教育の関係諸機関と連携し、児童生徒(保護者)の願いを基に、生涯にわたる一貫した支援を推進する。</p> <p>5 センターの機能を発揮し、支援ネットワークの構築を通して、地域における特別支援教育の充実を図る。</p> <p>6 地域に開かれ、地域と共にある特色ある学校づくりを進め、インクルーシブ教育を推進し、「共生社会の形成」に貢献する学校とする。</p>	<p>【組織・運営】</p> <ul style="list-style-type: none">・「緊急時対応訓練マニュアル」を「緊急時対応マニュアル」に改めることで、組織的に迅速な対応が図れるよう、『誰が見てもわかる』形での整理・改善をすることができた。・学校運営協議会を年4回実施し、今年度は各学部の授業を参観してもらうことで、児童生徒の学習活動に特化した視点で委員の皆様にご意見を伺うことができた。・今年度の9月より、「学校インスタグラム」を開設し、地域の方や保護者がより本校の情報を入手してもらいやすい環境を作り出した。・スクールマネジメントプランに基づき、各学部では目指す生徒像を踏まえ、児童生徒及びクラスの状態に合わせた学習活動を検討・展開することができた。 <p>【教育課程・学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none">・小中連携、中高連携を軸に、12年間のつながりを意識した活動を推進し、先輩への憧れ、自分自身への誇りにつなげることができた。・地域連携推進部と各学部が連携を図りながら地域の方を講師として招いたり、地域の方と一緒に作業したりと、積極的に地域リソースを活用した授業を実施することができた。・財団からの助成金を活用するうえ、「ほんの森」をリニューアルし、蔵書の数や読書スペースなど、学校図書館を充実させる取組を大きく進めることができた。・研究プロジェクトでは、自立活動に取り組んだが、活動のわかりにくさや機能的な情報発信ができず、教職員全員の理解につなげることができなかった。	<p>1 いのち、安心・安全の重視と確保</p> <p>(1) 児童生徒が自分の安全を意識し行動できる安全指導を実施する。 (2) 大規模災害を想定した施設環境や備品等の見直しを図る</p> <p>2 授業改善と教育課程の検討</p> <p>(1) 自立活動「時間における指導」でプロジェクトを中心としたモデル授業の構築し、モデル授業を踏まえた授業実施を進める。 (2) 学校教育目標を達成するための「支援」に視点を置いた実践研究を進める。 (3) 「憧れ」「ほこり」を生み出すための作業学習や生徒会活動の実践を目指す。 (4) 肢体不自由生徒の自発的コミュニケーションに視点を当てた実践研究を進める。</p> <p>3 地域に開かれ、地域と共にある、特色ある学校づくり</p> <p>(1) 地域資源活用により児童生徒にどのような効果があったのかを検証し、期待する姿をより明らかにした取組を推進する。 (2) 計画的で連続性のある地域資源活用を進める。 (3) 「ほんの森」を積極的に活用するとともに、一般開放を通して地域とつながる拠点とする。</p> <p>4 関係機関との連携による支援</p> <p>(1) 保健・福祉等の関係諸機関や保護者との連携のもと、特別支援学校が担うべき就学に係る支援を進める。 (2) 特別支援教育のセンター的役割をより効果的に果たすべく、地域支援センターの機能や運営、京都府南部視覚・聴覚支援センターとの連携等について改善・整理する。</p> <p>5 組織的な学校運営と、働きがいのある職場づくり</p> <p>(1) 第2期京都府教育振興プラン等京都府の施策を見据え、同時に「働き方改革」を踏まえて、円滑で機能的な学校運営に向け組織や業務改善を進める。 (2) 45周年に向けた全員参加型の自由度のある企画運営を進める。 (3) 時間外勤務の縮減、メンタル不全等の未然防止、職場復帰への支援など、職場環境や業務の改善におけた具体的方策を進める。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織運営	いのち、安心・安全を重視した学校運営	・校内におけるヒヤリ・ハット事象の全校共有と対策の構築。	△	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリ・ハット、アクシデントに対するそもそもの意識の持ち方に大きな課題を残した。今後保健部を中心に対応・対策の検討を進める。 ・防災・安全プロジェクトチームの企画に基づき、避難訓練、防災給食時に児童生徒が率先して行動できるなど、日頃から取組を続けてきた。 ・SC及びSSWと児童生徒、保護者、教職員を適切に結び付け、課題解決に向けた連携、助言を踏まえた指導を実施できた。 ・衛生委員会と連携を密にすることで、メンタルヘルスを意識した取組や活動を推進することができた。 ・働き方改革では、管理職指導というよりも、各学部各グループで業務を調整し、時間外勤務時間の削減に努めることができた。 ・地域連携では、ほんの森や新規リソースの活用と、新しいつながりを設けた。効果的な活用については、今後検証が必要である。
		・SC、SSWとの連携を通じた課題への早急な対応。		
		・大規模災害を想定した避難訓練の実施と備品の見直し。		
		・災害時に児童生徒が分かって動けるよう日頃からの防災指導の実施。		
	働きがいのある職場づくりに向けた取組の推進	・ウェルビーイングの定義を踏まえた風通しの良い職場環境づくり。	○	
		・時間外勤務を大幅に減らすための働き方改革の積極的な推進。		
		・メンタルヘルズ事業の活用とストレスをためないライフワークの確立。		
		・45周年記念に向けた全職員参加型の活動企画の実施。		
	地域に開かれ、地域と共にある特色ある学校づくり	・学校運営協議会との連携、地域や保護者の声を活かした学校運営。	◎	
		・ホームページやインスタグラムを活用した積極的広報の実施。		
		・地域資源活用の効果的な在り方についての検証。		
		・MINAMI LABO棟にある各ルームの効果的な活用。		
教育課程・学習指導	「憧れ」「ほこり」を育む学習活動の実施	・小中連携、中高連携を要とした学習活動の展開。	○	
		・適正な評価を通じた児童生徒の自尊感情の向上。		
		・学校教育目標の達成に向けた「支援」の内容についての検討。		
		・児童・生徒会活動の組織的な活動を通じた「育ち合い」の実践。		
	自立活動の「時間における指導」の在り方と授業づくりの研究	・「自立活動プロジェクト」での研究を踏まえたモデル授業の構築。	○	
		・「流れ図」の作成と活用を通じた児童生徒の的確なアセスメント。		
		・自立活動の授業公開等を通して「観て学ぶ」の積極的な運用。		

学校関係者 評価委員会 による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・風通しの良い職場環境づくりを進め、教職員がいろいろな意見やアイデアを気軽に出し合える風土を作っていただきたい。 ・広報の視点として、インスタグラムが大きな成果となっている。学校の取組をどなたにも知っていただける広報が、今後とても重要である。 ・キャリア教育を中心に、3年間、6年間、12年間のつながりをどのように進めていくか、高等部卒業後の生活を視野に組み立ててほしい。
-------------------------	--

次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・45周年記念プロジェクトチームを中心に、さまざまな活動を通してみんなで45周年を祝うことができる取組を積極的に進める。 ・学校教育目標にある「学び合い・育ち合い」を子供たちに育むために、指導者の支援の在り方について研究を進める。 ・防災・安全教育について「災害時と平常時がつながる」をキーワードに、現実的な視点からの取組や教育活動を検討し実施する。 ・地域連携については、取組を教育課程上に位置づけることで、教育課程に基づく効果的な活用として実践・検証を実施する。 ・ヒヤリ・ハット、アクシデント事象の早期共有、早期対策を図れるよう、校内のシステムについて検討・実践を目指す。
---------------	---